

令和8年度着手

県 営 にし たに いけ 西谷池地区 緊急防災等工事計画書

(防 災 ダ ム 事 業)

愛 知 県

目 次 (1/2)

	頁		頁
第 1 章 目 的	1	1. 要 旨	11
第 2 章 地 域 及 び 地 積	1	2. 事業別面積	11
第 1 節 地 域	1	第 2 節 営農計画及び土地利用計画	11
第 2 節 地 積	1	1. 営農計画の概要	11
第 3 章 現 況	2	2. 土地利用区分	11
第 1 節 気 象	2	3. 作付方式	11
1. 一 般 気 象	2	4. 生産計画	11
2. 特 殊 気 象	2	5. 労働改善計画	11
第 2 節 土 地 状 況	3	6. 級地別土地利用区分	11
1. 地形、土壌及び浸食の程度	3	7. 土地配分計画	11
2. 土 地 分 類	3	第 3 節 用水計画	12
3. 土地利用の状況	3	第 4 節 排水計画	12
4. 土地所有の状況	4	第 5 節 道路計画	12
第 3 節 水利状況	4	第 6 節 農用地造成計画	12
1. 用水状況	4	第 7 節 洪水調整計画	12
2. 排水状況	6	第 8 節 干拓計画	12
3. 河川状況	6	第 9 節 農用地整備計画	12
第 4 節 道路概況	6	第 10 節 老朽ため池改修計画	12
第 5 節 地域農業の概況	7	1. 洪水吐改修計画	12
1. 産業別就業人口	7	2. 取水施設改修計画	12
2. 経営耕地広狭別農業経営体数	7	3. 付帯計画(緊急放流施設)	12
3. 主要家畜頭数	7	第 5 章 主要工事計画	13
4. 主要作物作付状況	8	第 1 節 用水施設	13
5. 農業の動向	9	第 2 節 排水施設	13
第 6 節 地域環境の概況	10	第 3 節 道路及び索道	13
1. 特に配慮すべき生物環境	10	第 4 節 農用地造成	13
2. 景観の優れた地域の概要	10	第 5 節 洪水調整施設	13
第 4 章 一般計画	11	第 6 節 干拓施設	13
第 1 節 事業計画の要旨	11	第 7 節 農用地整備施設	13

目 次 (2/2)

	頁
第 8 節 老朽ため池改修施設	14
1. 貯水池	14
2. 堤体補強施設	14
第 6 章 附 帯 工 事 計 画	14
第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期	15
第 8 章 環境との調和への配慮	15
第 9 章 管理の要領	15
第 10 章 換地計画の概要	15
第 11 章 事業費の総額及び内訳	16
第 12 章 効 用	16
第 13 章 関連する事業	17
第 14 章 現況・計画平図面	17
1 位置図	
2 計画一般図	

第1章 目 的

本地区は愛知県の中南部の額田郡幸田町にあり、一級河川広田川の支流である西谷川の上流に位置している。西谷池は水稻を主とした受益面積9.5haの農業用ため池であり、貯水された用水はパイプラインにより各水田へ供給されている。本地区西谷池は、県営老朽ため池等整備工事（平成元年度～平成2年度）により、堤体・洪水吐が改修され、同時期に県営水質障害対策事業により取水施設および下流水路のパイプライン化が行われた。

堤体、取水施設、洪水吐の耐震診断を行った結果、底樋の耐震性不足が確認された。また、洪水吐においては、豪雨時において排水能力が不足していた。さらに、既存取水施設の緊急放流能力が不足しているため、緊急放流施設を新たに設置する必要が生じた。

よって、本事業において地震対策及び豪雨対策を行い、ため池決壊による洪水被害を未然に防止し、農業経営の安定を図ると共に国土の保全に資することを目的とする。

第2章 地域及び地積

第1節 地域 (第1表)

事業名	地 域
防災ダム事業	額田郡幸田町

第2節 地積 令和 7 年 10 月現在 (第2表)

現況地目 市町村名	田 ha	畑 ha	原野 ha	山林 ha	その他 ha	計 ha	備 考
幸田町	9.5	-	-	-	-	9.5	幸田町受益図
合計	9.5	-	-	-	-	9.5	

第3章 現 況

第1節 気象

1. 一般気象

(第3表－1)

観測所名	岡崎観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	H3 ～ R2	4 月 ～ 9 月	10 月 ～ 3 月		
平均気温 (℃)		22.0 ℃	9.0 ℃	15.5 ℃	
降水量	平均(mm)	963 mm	545 mm	1,508 mm	
	基準年(mm)	—	—	—	
降水日数	平均(日)	60 日	44 日	104 日	
	基準年(日)	—	—	—	
根 雪 期 間		— 月 — 日 ～ — 月 — 日 (— 日間)			
無 霜 期 間		— 月 — 日 ～ — 月 — 日 (— 日間)			
最 多 風 向		NW	最大風速 (風 向)	18.0 m/s (NW)	最多風向発生時期 12月～4月 最大風速発生年月日 平成3年2月25日

出典：愛知・豊川用水振興協会HPより

2. 特殊気象

(第3表－2)

観 測 所 名		第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
岡 崎 観 測 所																	
観 測 期 間		数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
S51.1.1 ～ R6.12.31																	
最大日雨量	(mm)	268.0	R5.6.2	1/926	263.5	H20.8.29	1/730	179.0	H12.9.12	1/14	159.0	S57.8.3	1/7	155.5	R4.9.23	1/6	
最大時間雨量	(mm)	146.5	H20.8.29	1/1000以下	78	H23.9.20	1/44	67.5	R4.7.26	1/21	55.5	R2.7.25	1/9	55.0	H12.9.12	1/8	
最大4時間雨量	(mm)	252.5	H20.8.29 0:00～4:00	1/1000以下	141	H12.9.11～12 22:00～2:00	1/34	112	R5.6.2 10:00～14:00	1/10	108	H23.9.20 2:00～6:00	1/9	106	H6.9.17 19:00～23:00	1/8	
最大連続雨量	(mm)	447.5	H20.8.28 ～8.30	1/448	302.5	R5.5.29 ～6.3	1/14	295	H5.6.29 ～7.15	1/12	295	H12.9.11 ～9.12	1/12	286	H2.9.13 ～9.20	1/10	
最大連続干天日数	(日)	40	S61.1.5 ～2.13	1/76	36	H9.10.8 ～11.12	1/37	32	H11.12.6 ～H12.1.6	1/18	31	H7.11.28 ～12.28	1/15	31	H10.12.9 ～H11.1.8	1/15	第5位 同数 H21.8.12～9.11

出典：愛知・豊川用水振興協会HPより

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

令和 7 年 10 月現在 (第4表-1-1)

事業名	地 目	田						畑・その他						受益地標高(m)		備考
	傾 斜 区 分	1/1000 以下	1/1000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 ～ 以上	計	3° 以下	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
防災ダム事業	面積 (ha)	-	8.6	0.9	-	-	9.5	-	-	-	-	-	-	38.7	7.8	
	比率 (%)	-	91%	9%	-	-	100%	-	-	-	-	-	-			

出典：都市計画図 (S=1:2,500) 図測による

令和 7 年 10 月現在 (第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表									面 積 (ha)			備考	
	土 壤 断 面							堆積様式	母材	事 業 名				
	色	腐植	礫層	酸化 沈殿物	土 性					泥炭層黒 泥層及び グライ層	防災ダム 事業	－		－
					表 土	下 層 土								
					一 層	二 層	三 層							
柏原1統	黄褐	－	－	－	壤～粘質	壤～強粘質	－	－	残積	非固結 水成岩	9.5	－	－	
計											9.5	－	－	

出典：国土政策局国土情報課 土地分類基本調査より

2. 土地分類

該当なし

3. 土地利用の状況

令和 7 年 10 月現在 (第4表-3)

事業名	土地 利用別 市町村別	耕 地						原野	山林	採草 放牧地	その他	計	備考
		水 田	普通畑	牧草地	果樹園	茶 園	そ の 他 樹 園 地						
防災ダム事業	幸田町	9.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9.5	

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名		所有別 区 分	個 人 有 地 等	国 有 地	県 有 地	市 有 地	計	備 考
防 災 ダム 事 業	面 積 (ha)	9.5	-	-	-	-	9.5	
	受 益 者 数 (人)	-	-	-	-	-	-	
	筆 数 (筆)	-	-	-	-	-	-	
	権 利 関 係	-	-	-	-	-	-	
	備 考 (関 係 戸 数)	-	-	-	-	-	-	

第3節 水利状況

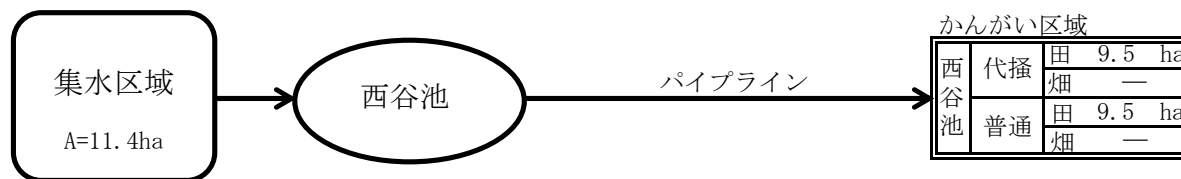
1. 用水状況

西谷池の貯水は、流域からの流入により安定した用水供給がなされている。

受益地には、パイプラインにより、用水供給されている。

(1) 用水系統

現況用水系統図



凡		例	
	かんがい区域	9.5	ha
	集水区域	11.4	ha
	池貯水量	14,000	m3

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項 目 施設名	か ん が い 面 積						計		許 可 水 利 権		慣 行 水 利 権		延べ取水量		備 考
		500ha以上		500ha～100ha		100ha未満										
		(箇所)	(ha)	(箇所)	(ha)	(箇所)	(ha)	(箇所)	(ha)	(箇所)	(m3/s)	(箇所)	(m3/s)	(箇所)	(m3/s)	
防災ダム事業	貯 水 池	-	-	-	-	1	9.5	1	9.5	-	-	-	-	-	-	
	井 堰	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	自 然 取 入 口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	揚 水 機	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	そ の 他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合 計		-	-	-	-	1	9.5	1	9.5	-	-	-	-	-	-	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項 目 施設名	施 設 名 又 は 箇 所 数 (箇所)	受 益 面 積 (ha)	構 造	規 模	新 設 年 又 は 更 新 年	改修を必要とする理由	備 考
防災ダム事業	貯水池	西谷池 1	9.5	緊急放流施設【新設】	未整備	-	取水孔では緊急放流が不可能なため、緊急放流施設を新設する。	
				取水施設(竖樋・底樋)	取水孔 φ400×2-φ600×1 底樋 φ600	平成元～5年度	施設の耐震性不足により改修を行う。	
				洪水吐(側水路型)	堰長5.3m	平成元～2年度	豪雨時における放流能力不足により改修を行う。	
	井 堰	-	-	-	-	-	-	
	自 然 取 入 口	-	-	-	-	-	-	
	揚 水 機	-	-	-	-	-	-	
	用 水 路	-	-	-	-	-	-	
	そ の 他	-	-	-	-	-	-	
	計	1	9.5	-	-	-	-	
合 計		1	9.5	-	-	-	-	

(3) 用水に関する被害状況
該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						備考
	田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計	
防災ダム事業	11.7	3.1	11.4	26.2	14,358	199,380	43,077	532,790	2,287,743	3,077,348	
合計	11.7	3.1	11.4	26.2	14,358	199,380	43,077	532,790	2,287,743	3,077,348	

2. 排水状況
該当なし

3. 河川状況
該当なし

第4節 道路概況

本地区の受益地には、一般県道幸田幡豆線に接続する町道及び農道が整備されており、農作物の輸送道路及び日常の生活道路として兼用されている。

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

項 目	総 数	農 業	林 業	漁 業	鉱 業	建設業	製造業	電気ガス 熱供給 水道業	運 輸 通信業	卸 売 小売業 飲食店	金 融 保険業	不動産業	サービス 業	公 務	その 他	備 考
市町村名	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
幸田町	21,718	689	3	3	5	1,227	8,630	97	972	2,550	318	216	3,214	535	3,259	
比率 (%)	100.0	3.2	0.0	0.0	0.0	5.6	39.7	0.4	4.5	11.7	1.5	1.0	14.8	2.5	15.1	

出典: 令和2年国勢調査

2. 経営耕地広狭別農業経営体数

(第7表-2)

区分 市町村名	農業 経営 体数 (経営体)	経営耕地広狭別農業経営体数 (経営体)										1経営体当り 平均農用地面積 (ha)				備 考
		0.3 ha 未満	0.3 ～ 0.5 ha	0.5 ～ 1.0 ha	1.0 ～ 1.5 ha	1.5 ～ 2.0 ha	2.0 ～ 3.0 ha	3.0 ～ 5.0 ha	5.0 ～ 10.0 ha	10.0 ～ 20.0 ha	20.0 ha 以上	田	畑	樹 園 地	草 地	
幸田町	342	32	84	126	50	16	9	7	5	4	9	2.93	0.38	0.67	0.50	
比率 (%)	100.0	9.4	24.6	36.8	14.6	4.7	2.6	2.0	1.5	1.2	2.6	65.4	8.5	14.9	11.2	

出典: 2020年世界農林業センサス

3. 主要家畜頭数

(第7表-3)

主 要 家 畜 飼 養 頭 数										(単位: 羽)
項 目 市町村名	主 要 家 畜								備 考	
	乳用牛		肉用牛		豚		家さん			
	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)		
幸田町	-	-	x	4	x	1	-	-	「-」は事実の無いもの、「X」は 秘密保持上統計数 値を公表しないも の	
100経営体当たり数量 (頭, 100羽)	-		-		-		-			
飼養経営体数 割合(%)	-		1.2		0.3		-			

出典: 2020年世界農林業センサス

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市 町 村 名	幸田町	—	—	—	—	—	—	計	作付割合	備 考
総 耕 地 面 積 (ha)	879	—	—	—	—	—	—	879		
区 分 作 物 名	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	(%)	※総耕地面積は2020年農 林業センサスに情報がな いため第67次東海農林水 産統計年報の値を採用 2020年農林業 センサス 「-」は事実の 無いもの、 「X」は秘密保 持上統計数値 を公表しない もの
水 稻	523	—	—	—	—	—	—	523	63.9	
麦 類	167	—	—	—	—	—	—	167	20.4	
雑 穀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
い も 類	X	—	—	—	—	—	—	X	—	
豆 類	X	—	—	—	—	—	—	X	—	
工 芸 作 物	X	—	—	—	—	—	—	X	—	
野 菜 類	46	—	—	—	—	—	—	46	5.6	
果 樹 類	68	—	—	—	—	—	—	68	8.3	
花き類・花木	X	—	—	—	—	—	—	X	—	
そ の 他 作 物	15	—	—	—	—	—	—	15	1.8	
計	819	—	—	—	—	—	—	819	100.0	

出典：2020年農林業センサス

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農業経営体数			土 地			主要作物			主要家畜			地域指定等	備 考
		B	A		B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A		
変化の状況 (C年を100とする指数)	農業経営体数	90	81	耕地	93	109	水稻	117	137	乳用牛	X	-	農業振興地域指定 昭和45年指定 昭和49年認可 野菜指定産地 平成11年指定 冬春なす 平成14年指定 夏秋なす 果樹濃密団地 平成18年指定 温州みかん なし かき いちじく 酪肉近代化 平成18年指定	A：令和2年 (2020年) B：平成27年 (2015年) C：平成22年 (2010年)
	個人経営体数	83	66	田	92	119	麦類	X	106	肉用牛	X	X		
	団体経営体 (法人) 数	61	38	畑	99	92	豆類	147	X	豚	X	X		
	団体経営体 (非法人) 数	88	73				野菜	X	140	家さん	-	-		
							果樹	X	66					
変化の理由	他産業への転職、高齢化等に伴い、農業経営体数は総じて減少傾向にある。			住宅等への転用により、耕地は減少傾向にあるが、近年は大規模農家の経営拡大等により、経営耕地の増加が見られる。			生産調整等の施策に伴う飼料米や転作に連動し、水稻、麦類、豆類、野菜が増加傾向であるが、果樹については農業経営体の減少に伴い減少傾向にある。			飼養農家数の減少から秘密保護のため公表されない品種が多く、変化の把握ができない。				「-」は事実の無いもの、 「X」は秘密保持上統計数値を公表しないもの

出典：2010年世界農林業センサス、2015年農林業センサス、2020年農林業センサス

第6節 地域環境の概況

幸田町は、海拔5m～440m間にあり、平地から山村にかけて多くの地形がみられる。山地は本町の東、南、西部の三方を囲むように形成され、東部の山地は岡崎市、蒲郡市と境をなし、本町の最高峰である遠望峰山がそびえている。また南、西部は三河山地の最南端にあたり、三河湾国定公園の一部をなす三ヶ根山を中心とする幡豆山地の北部を占めている。

このように、本町は両側にびょうぶを立てた形で山地が連なっているため、森林をはじめとする緑・自然景観などに非常に恵まれている。

1. 特に配慮すべき生物環境

(1) 植物

市街地の周辺は水田が取り巻き、その外周は樹林地や畑地となっている。樹林地は市街地東部及び南西部に広く分布し、クロマツの植林にまじりアラカシ群落、モチツツジ・アカマツ群落、コナラ・クリ群落などがみられ、特に南部ではクロマツ群落が広がっている。果樹園は本町南西部及び北東部に多くみられる。

近年では、クロマツ群落が減少し竹林が広がるなど、植生の変化がみられる。

(2) 動物

動物は、サル・コウモリ・ノウサギ・ネズミ・タヌキ・イタチ・テン・イノシシが生息していたが開発が進み現在みられないものもある。

鳥類では、自然環境で、メジロ・ヒヨドリ・ゴジュウカラ・ジュウイチ・ホオジロ・ヨタカ・ヒバリなどをみることができる。

昆虫に関しては、山間部から田園地帯にわたりゲンジボタル、水たまりや水田では、ゲンゴロウ・タガメなどがみられる。

魚類に関しては、山間地の川にギギが見られる。水田地帯では、ドジョウ・ウナギ・フナ・コイなどが多く生息する。

貝類では、水田地帯でカラスガイが多く生息する。

2. 景観の優れた地域の概要（特に配慮すべき生物以外のもの）

東部及び南部の遠望峰山・三ヶ根山を中心とする三河湾国定公園などの山並みに囲まれ、里山の緑や河川、本町中央部の市街地周辺を取りまく農地やため池などにより、自然豊かな景観が広がっている地域である。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要旨

本地区の事業計画は、地震対策及び豪雨対策を行い、ため池決壊による洪水被害を未然に防止し、農業経営の安定を図ると共に国土の保全に資することを目的とする。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分 事業目的	防災ダム事業										合計 (ha)
	水田	普通畑	牧草地	果樹園	小計	水田	普通畑	牧草地	果樹園	小計	
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農地防災	9.5	-	-	-	9.5	-	-	-	-	-	9.5
計	9.5	-	-	-	9.5	-	-	-	-	-	9.5

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

地震及び豪雨時のため池決壊による洪水被害を未然に防止することで、農業経営の安定を図る。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 (ha)	小計 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
防災ダム	現況	9.5	-	-	-	-	-	9.5	-	-	-	9.5	
	計画	9.5	-	-	-	-	-	9.5	-	-	-	9.5	

3. 作付方式 該当なし

4. 生産計画 該当なし

5. 労働改善計画 該当なし

6. 級地別土地利用区分 該当なし

7. 土地配分計画 該当なし

第3節 用水計画
該当なし

第4節 排水計画
該当なし

第5節 道路計画
該当なし

第6節 農用地造成計画
該当なし

第7節 洪水調整計画
該当なし

第8節 干拓計画
該当なし

第9節 農用地整備計画
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

- | | |
|---------------------|---|
| 1. 洪水吐改修計画 | 既設洪水吐では基準を満たさないため、設計洪水量4.754m ³ /sの流水を安全に流下可能な構造に改修する。 |
| 2. 取水施設改修計画 | 既設底樋管の耐震性が不足しているため、改修を行う。 |
| 3. 付帯計画
(緊急放流施設) | 地震発生直後等の堤体保全を目的とし、ため池水位を1日で所定の水位に降下させる放流能力を有した緊急放流施設を設ける。 |

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設
該当なし

第2節 排水施設
該当なし

第3節 道路及び索道
該当なし

第4節 農用地造成
該当なし

第5節 洪水調整施設
該当なし

第6節 干拓施設
該当なし

第7節 農用地整備施設
該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

(第24表)

名 称	西谷池			位 置	額田郡幸田町大字六栗地内				
堤 体	型 式	流 域 (km2)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (m3)	堤 頂 幅 (m)	貯 水 量 (千m3)	備 考	
	前刃金型	0.114	9.2	67.0	-	3.85	14.0		
洪 水 吐	型 式	洪 水 量 (m3/s)	規 模 (m)	備 考	取 水 施 設	型 式		取 水 量 (m3/s)	備 考
	側水路越流型	4.75	6.8	洪水吐 施設整備		取水孔 底 樋	φ 400×2孔 φ 600×1孔 φ 800	0.08	取水施設 施設整備
緊急放流施設	型 式		放流量 (m3/s)	備 考					
	放流孔 φ200		0.133 (最大)	緊急放流 施設整備					

2. 堤体補強施設

(1) 法面保護工

コンクリートブロック張りにより、波浪から起こる堤体法面の浸食を防止する。

(2) 漏水防止工

該当なし

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工期

着工 令和 8 年度 完了 令和 13 年度（予定）

2. 工事の年度割予定

	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
測量・調査・設計等						
洪水吐工						
取水施設工						
緊急放流工						
仮設工						

第8章 環境との調和への配慮

（1）配慮の対象

本地区は、田園環境整備マスタープランにおいて、環境創造区域となっている。
 当該ため池は、森林に囲まれ、良好な水辺環境を有しており、魚類では在来種のトウヨシノボリが確認された。今後もこれらの生物が生息できるような環境の保全に配慮する。
 なお、希少種・絶滅危惧種については生物調査では確認されていない。

（2）配慮の方法

魚類・昆虫・鳥など、水辺を生息域とする水生生物を中心とした水辺環境の保全のため、工事用道路のルートや規模を検討し、生物の生育・育成に必要な水が溜まる部分を残すよう工夫する。
 魚類は外来種を除き、近隣の池に一時的に移動するなどして影響を軽減する。
 工事中に発生する濁水は、ろ過施設を設けることで濁水対策を講じる。

第9章 管理の要領

県営防災ダム事業により造成された土地改良施設は、幸田土地改良区が管理する。

第10章 換地計画の概要

該当なし

第11章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

事業名 区分		防災ダム事業 (千円)	備 考
事業費 ※1		249, 000	
事務的経費 ※2		15, 300	
計		264, 300	
関連 事業 (参考)	-	-	
	-	-	

令和7年度単価。消費税は10%にて算定。(ただし、物価変動により将来変動することがある。)

※1 事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2 事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

第12章 効用

(第27表)

区分 項目	防災ダム事業		備 考
	年総効果(便益)額 (千円)	年総増加農業所得額 (千円)	
災害防止効果(農業関係資産)	11, 171	11, 171	
災害防止効果(一般資産)	99, 517	-	
災害防止効果(公共資産)	23, 176	-	
維持管理費節減効果	△ 20	-	
計	133, 844	11, 171	総便益額 2, 093, 547 千円

<参考>

令和7年度単価

① 当該事業費	:	210, 946 千円
② その他費用	:	62, 941 千円
③ 総費用(現在価値化)	:	273, 887 千円
④ 年償還額	:	- 千円
④' うち機能向上分	:	- 千円
⑤ 年総効果(便益)額	:	133, 844 千円
⑥ 現況年総農業所得額	:	7, 354 千円
⑦ 年総増加農業所得額	:	11, 171 千円
評価期間: 46年		
割引率: 0. 04		
⑧ 総便益額(現在価値化)	:	2, 093, 547 千円
⑨ 総費用総便益比 = ⑧ ÷ ③	=	7. 64 ≥ 1. 00
⑩ 総所得償還率 = ④ ÷ ⑥	=	- ≤ 0. 2
⑪ 増加所得償還率 = ④' ÷ ⑦	=	- ≤ 0. 4

第13章 関連する事業

該当なし

第14章 現況・計画平面図

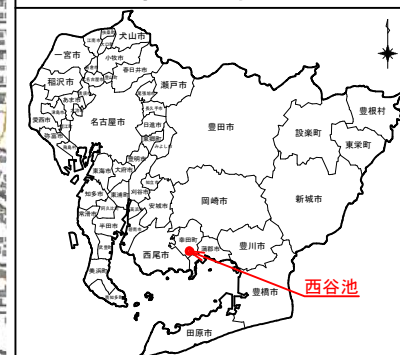
1. 位置図
2. 計画一般図

防災ダム事業 西谷池地区

所在地：愛知県額田郡幸田町大字六栗地内

縮尺 1:10,000

県内位置図

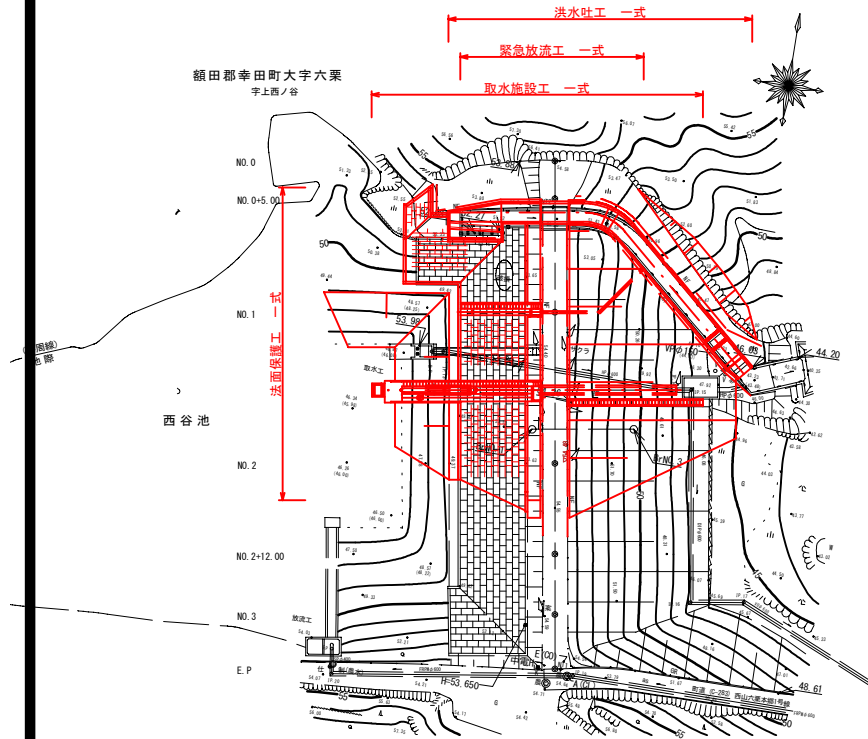


凡 例

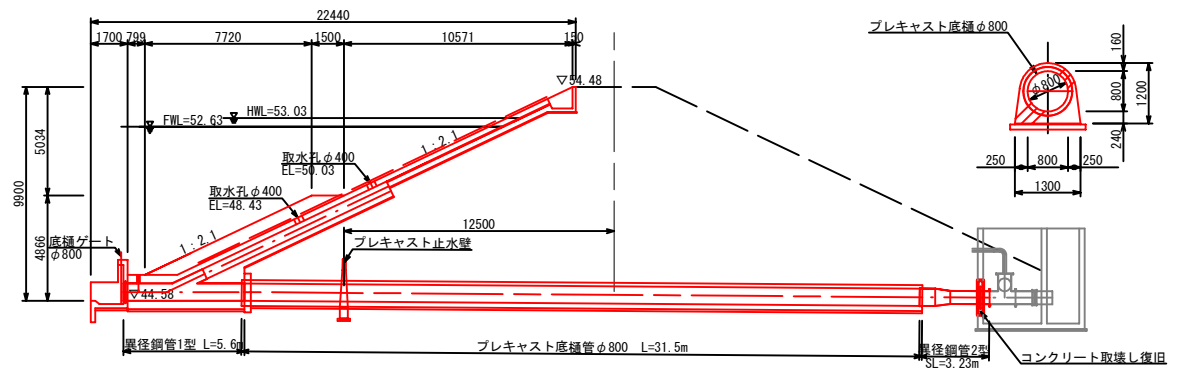
	直接被害区域	26.2 ha
	間接被害区域	4.2 ha
	かんがい受益(水田)	9.5 ha
	かんがい受益(畑)	- ha
	直接被害農地(水田)	7.5 ha
	直接被害農地(畑)	3.1 ha
	集水区域	11.4 ha

計画一般図

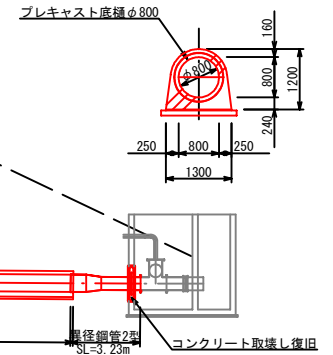
計画平面図
S=1:1000



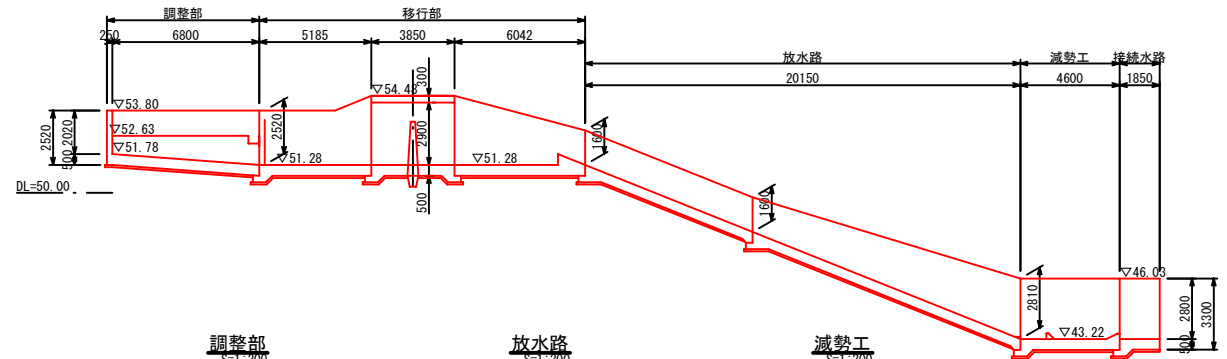
取水施設工
S=1:350



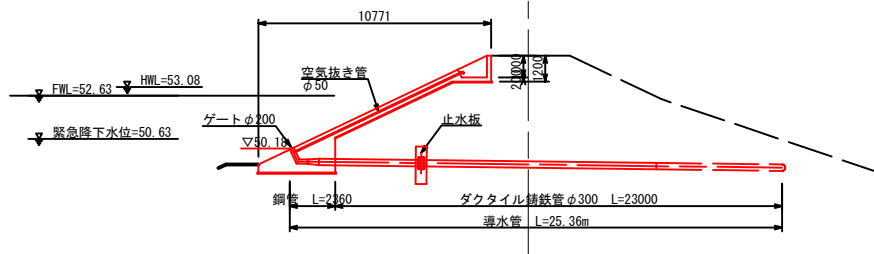
底樋断面図
S=1:150



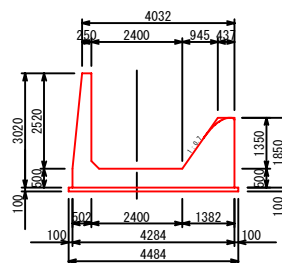
洪水吐工
S=1:350



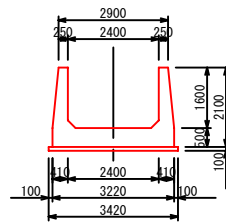
緊急放流工
S=1:350



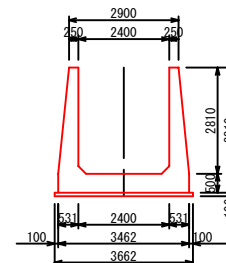
調整部
S=1:200



放水路
S=1:200



減勢工
S=1:200



西谷池

図面の名称		図面番号
計画一般図		
縮尺 図示		
測量	平成 年 月 日終了	
設計		
製図		
図写		

土地改良法第 87 条の 4 第 2 項の規定により協議すべき事項
(県営防災ダム事業西谷池地区)

I. 県営土地改良事業によって造成される施設の予定管理方法
(別紙 1)

II. 県営土地改良事業（西谷池地区）における事業費及び事務
的経費の負担区分の予定及び地元負担の予定基準
(別紙 2)

I 県営土地改良事業によって造成される土地改良施設の予定管理方法

1. 管理者

幸田土地改良区

2. 管理すべき施設の種類

本事業において改修されるため池一ヶ所

(取水施設工一式、洪水吐工一式、緊急放流工一式)

3. 貯水、放流、取水又は排水に関する基本的事項

管理者の定める規程による。

4. 管理に要する費用の概算および負担方法

(1) 費用の概算

年間管理費 約93千円

※但し、物価の変動または維持管理の程度により、経費は増減することが考えられる。

(2) 費用の負担方法

必要経費は管理者の定める規程により負担する。

5. その他管理方法に関する基本的事項

当該施設の管理については、管理者の定める規程による。

Ⅱ 県営土地改良事業(西谷池地区)における事業費及び事務的経費の
負担区分の予定並びに地元負担の予定基準

1. 事業に要する費用

264,300千円	事業費 ※1)	249,000千円
	事務的経費 ※2)	15,300千円

(令和7年度単価。消費税については10%にて算定。ただし、物価変動により将来変動することがある。)

※1) 事業費とは土地改良事業に要する費用のうち、事務的経費を差し引いた費用。

※2) 事務的経費とは昭和48年7月23日付け48構改D第609号(設)農林水産省構造改善局長通知により定められた事務費及び工事雑費。

2. 負担区分の予定割合 (単位：%)

事業の種類	国庫負担	県負担	幸田町負担	地元負担
事業費	55	34	11	—
事務的経費	—	100	—	—

3. 土地改良法第91条の規定による負担金の納入方法

本事業の施行に係る地域の幸田町は土地改良法（昭和24年法律第195号。）第91条第6項の規定により、本事業によって受ける利益を限度として、これに相当する金額を愛知県に対し負担する。

4. 地元負担の予定基準

該当なし